



国際数理科学協会会報

No.64/ 2009. 7

編集委員：藤井正俊(委員長)、藤井淳一

目次

- | | |
|-------------------|---------------|
| * 会長選挙報告 | * 九工大シンポジウム案内 |
| * 執行役員、理事選挙報告 | * 雑誌の案内 |
| * 新公益法人制度への対応について | * 機関会員募集 |
| * 2009年度研究集会プログラム | * 正会員申込用紙 |
| * 研究集会案内 | * 会員募集 |

* 会長選挙報告

会長候補長尾壽夫の信任投票が6月7日より6月15日の間にあり投票総数31票、全票可で信任されました。任期は2009年7月1日より2010年12月31日の1年半です。

なお、1票だけ締め切り後の投票がありましたが、無効と致しました。

* 執行役員、理事選挙報告

執行役員：井関清志(編集担当 SCMJ),佐藤俊輔(編集担当 SCMJ),藤井正俊(編集担当 会報)、毛利進太郎(編集担当 WWW),渚勝(集会担当 遠隔研究集会)、栗木進二(集会担当 遠隔研究集会)、中西シツ(集会担当 IVMS),岳五一(集会担当 共同国際研究集会)、高橋渉(集会担当 共同国際研究集会)、寺岡義伸(協会事業運営)

国内理事：石井博昭、木下佳樹

上記の方の信任投票が6月7日より6月15日の間にあり投票総数31票、全票可で信任されました。任期は2009年7月1日より2012年6月30日までの3年間です。なお、1票だけ締め切り後の投票がありましたが、無効と致しました。

* 新公益法人制度への対応について

5月30日(土)に乃木坂の日本学会会議で開かれたシンポジウムに参加してきました。このシンポジウムは学協会の新制度への対応状況に関する現状報告があり、主催、講演者などについては

<http://www.scj.go.jp/ja/event/index.html>

をご覧ください。

平成20年12月1日に新公益法人制度が施行されました。漢字検定協会のニュースなどもありま

したので新制度になっていることをご存知の方は多いと思いますが、何が変わったか、それに対する対応などについては、あまり身近なことではないと思います。概略については

<http://www.gyokaku.go.jp/siryoku/koueki/pamphlet.html>

に施行される前に配布された改革の概要に関するパンフレットがあります。これで感じをつかんでいただけるかと思います。

以前の制度では法人の設立に主務官庁の許可を要し、その法人の公益性の判断は主務官庁が自由にでき、税の優遇と連動していました。新制度では、法人の設立は、登記のみと簡単になり、公益目的事業を行うことを主たる目的としている法人、は申請して、公益法人の認定を受けることになります。

当協会のように従来の公益法人は、新制度施行後は特例民法法人として従来通りの法人として存続できますが、平成25年11月末（施行後5年間）までに新制度の法人への移行申請を行わなかった場合、解散となります。

したがって当協会も多くの学協会と同様、移行申請が必要になります。簡単に新制度の法人への移行だけを行うか、公益法人の申請とするか、そのための留意点などが課題となります。公益法人申請に関しては当日も概略の説明に使われた公益法人Informationの施策-パンフレット「民による公益の増進を目指して」(https://www.koeki-info.go.jp/pictis_portal/common/portal.do)をご覧ください。このサイトは申請の窓口でもあり、多くの情報をリンクしています。このパンフレットにより申請に向けての留意点はわかりますが、法人の内部統治（ガバナンス）の整備、つまり理事会、評議員、評議員会に関する定款の整備を行うなどの必要があります。活動の公益性の主張、公益目的会計支出計画など事務的な作業量は増えるようです。

現状、新法人への移行申請を考えても、公益法人の申請に二の足を踏んでいる学協会は多いようです。この辺りがこの日のシンポジウムで、学協会に対するアンケートから、多くのところでまだ様子を見ているという状況が見えます。配布された資料は

<http://www.scj.go.jp/ja/info/iinkai/renkei/>

にあるもので、学協会へのアンケート結果報告や、海外の学協会の課税に関する状況についての調査資料、報告もあります。

また公益法人申請への取り組み経過報告という形で、いくつかの事例の紹介がありましたが、民間公益活動を推進する公益法人協会からの報告は、やはり一番参考になりました。

<http://www.kohokyo.or.jp/>

がそのwebページです。この協会は、すでに新制度での公益法人の移行認定を受けていますが、その申請の過程の申請日記を掲載していたり、コラムに理事長の意見があるなど、いままでの資料とは異なり、実践的なデータやその作業に伴う雑感が提供されています。

申請のパンフレットによると、公益法人への移行認定の認定基準として、「経理的基礎を有すること」、「技術的能力を有すること」、「特別の利益を与える行為を行わないこと」、「収支相償であると見込まれること」、「公益目的事業比率が50%以上であると見込まれること」、「遊休財産額が制限を超えないと見込まれること」があげられています。各学協会は活動内容と照らし合わせて、これらの項目に対して現状確認を行い、電子申請書を作成することになります。

私自身は電子申請書を詳細に見たことはありませんし、国際数理科学協会の対応する状況、数値などを把握している訳でもありません。したがって、その作業量の見積もりはできません。たいへんそうだという感じと、組織としての各種規定の整理など、これに伴う作業も多くありそうだという、会計知識なども必要か、と漠然とした事柄が浮かんでくるだけです。公益法人協会理事長の発言によりますと、「申請書別表は計算問題」（会計知識が必要ということではない）、「組織の形作りは団体自治の領域」ということです。今回の制度改革に伴って国際数理科学協会も、文書の整備およびそれに伴うシステムの整備が必要になるのかもしれませんが。これは、役員になった方の仕事が増えることを意味するのかもしれませんが。これは協会の組織の充実を促していることであって、手間が増えたというよりは、前向きに受け止めると良い、という趣旨の発言でした。論文の発行を主に活動している当協会などは、これを社会に対する公益性として、専門性を武器に多くの理由を付ければ良いだろうという意見もありました。

今回のシンポジウムに参加した感想としては、作業量がわからないという無責任な立場ながら、公益法人としての移行申請を前提に、準備を進行させていけば良いというように感じました。

千葉大学理学研究科 渚 勝

* 2009年度研究集会プログラム

国際数理科学協会 2009 年度年会

「確率モデルと最適化」研究部会研究集会

日時：平成21年8月12日 11時20分～16時50分

会場：神戸大学 瀧川記念会館

プログラム

- 11:20～12:00 Colonel Blotto Game について
寺岡義伸（近畿大学 経営学部）
昼 食
- 13:10～13:50 ラフ集合を用いた献立推奨システム
加島 智子（大阪大学 大学院情報科学研究科）
- 13:50～14:30 時刻に依存した割引率をもつ2人売り出しサイレント・ゲーム
北條 仁志（大阪府立大学 大学院理学系研究科）
休 憩
- 14:40～15:20 提携値に関する不完全情報協力ゲームの構築へ向けて
梶屋 聡（大阪大学 大学院基礎工学研究科）
- 15:20～16:00 競争環境下での不確実性を伴う施設配置問題に対する解法アプローチ
宇野剛史（徳島大学 総合科学部）
休 憩
- 16:10～16:50 Copula の多重従属な競争リスクモデルにおける識別可能性問題への応用
米山寛二（兵庫県立大学 環境人間学部）

この研究集会は、

日本オペレーションズ・リサーチ学会「不確実性下の意思決定モデリング」研究部会

担当主査：大西匡光（大阪大学 大学院経済学研究科）

幹事：西原 理（大阪大学 大学院経済学研究科）

との共催で開催されます。

国際数理科学協会「確率モデルと最適化」研究部会世話人
寺岡義伸（近畿大学 経営学部）
北條仁志（大阪府立大学 大学院理学系研究科）

「統計的推測と統計ファイナンス」分科会研究集会

プログラム：午前の部

10:00～10:30 坂本 琢磨（大阪府立大学 理学系研究科 情報数理科学専攻）

『確率微分方程式モデルによるオプションプレミアムの導出』

10:30～11:00 南 健太（大阪府立大学 理学系研究科 情報数理科学専攻）

『生存時間解析における尤度に基づく推測』

11:00～12:00 藤井 孝之（統計数理研究所）

『尖点パラメータに関する推定量の漸近的性質について』

プログラム：午後の部

13:00～14:00 熊谷 悦生（大阪大学 基礎工学研究科）

Information Loss of Extracted Series in AR(1) model

14:00～15:00 地道 正行（関西学院大学 商学部）

『財務データベースサーバの構築』

15:15～16:15 林利治（大阪府立大学 理学系研究科）

『取引に手数料がかかる下でのオプションの価格付け』

統計的デザイン，組合せ的デザインとその周辺

11:00-11:30

市村尚代（大阪府立大学大学院工学研究科）

Cox 比例ハザードモデルを用いたデータ解析

11:30-12:00

田口和規（大阪府立大学工学部）

分割型ユニットをもつ2因子実験の構成法

* 研究集会案内

「代数、論理、幾何と情報科学研究集会(ALGI)」の研究部会の開催日、場所は次です。

日程：9月14日（月）～9月15日（火）

場所：鳥取環境大学

詳細は決まり次第<http://sakura.math.kyushu-u.ac.jp/alg/index.html>

に掲載の予定。代：古澤仁（鹿児島大学）西澤弘毅（鳥取環境大学）

100th Anniversary of Kyushu Institute of Technology

The Third International Symposium on
Banach and Function Spaces 2009

September 14–17, 2009, Kitakyushu, Japan

The Third International Symposium on BANACH and FUNCTION SPACES 2009 (ISBFS 2009) will be held at Kyushu Institute of Technology (KIT), Tobata Campus, Kitakyushu, JAPAN on September 14–17, 2009 with support of KIT and the Mathematical Society of Japan. The main subjects are Banach spaces and function spaces with related topics. There will be plenary lectures of 50 minutes, invited talks of 30 minutes and contributed talks of 20 minutes. We are also planning to organize a couple of special lectures of 30 minutes devoted to the memory of the Japanese mathematician Professor Hidegoro Nakano on the centenary of his birth at the beginning of the Symposium by Professors Tsuyoshi Ando and Lech Maligranda. The Symposium will start in the morning of September 14 and end in the evening of September 17: <http://isbfs.mns.kyutech.ac.jp/>

Organizing and Scientific Committee

Mikio Kato (Kitakyushu, Japan) – Chair
Lech Maligranda (Luleå, Sweden)
Kichi-Suke Saito (Niigata, Japan)
Wataru Takahashi (Tokyo, Japan)
Kenjiro Yanagi (Yamaguchi, Japan)

Fernando Cobos (Madrid, Spain)
Yoshiaki Okazaki (Iizuka, Japan)
Tomonari Suzuki (Kitakyushu, Japan)
Yasuji Takahashi (Soja, Japan)

Plenary Speakers

Tsuyoshi Ando (Sapporo, Japan)
Bernd Carl (Jena, Germany)
Yunan Cui (Harbin, P. R. China)
Patrick N. Dowling (Miami, USA)
Lech Maligranda (Luleå, Sweden)
Eiichi Nakai (Osaka, Japan)
Wataru Takahashi (Tokyo, Japan)

Sergei V. Astashkin (Samara, Russia)
Fernando Cobos (Madrid, Spain)
Sompong Dhompongsa (Chiang Mai, Thailand)
G. López Acedo (Sevilla, Spain)
Akihiko Miyachi (Tokyo, Japan)
Yves Raynaud (Paris, France)

Invited Speakers

Luz M. Fernández-Cabrera (Madrid, Spain)
Naoto Komuro (Asahikawa, Japan)
Shizuo Miyajima (Tokyo, Japan)
Tomonari Suzuki (Kitakyushu, Japan)
Witold Wnuk (Poznan, Poland)

Masato Kikuchi (Toyama, Japan)
Carsten Michels (Oldenburg, Germany)
Lubos Pick (Praha, Czech Republic)
Yasuji Takahashi (Soja, Japan)
Kenjiro Yanagi (Yamaguchi, Japan)

Conference Fee The Conference fee is 18,000JPY. For students and those who don't have a position the reduced amount 9,000JPY is available. The conference fee will cover in part organizing expenses such as the conference material, coffee breaks, banquets, conference Proceedings. The fee for an accompanying person who intends to take part in the banquets (twice) is 9,000JPY. Payment would be made in cash at the registration desk at the symposium place at Kyushu Institute of Technology. Neither cheques nor credit cards can be accepted for the payment.

Registration Participants who want to present a short communication of 20 min. are kindly invited to apply with an abstract by the registration form which can be downloaded at our website: <http://isbfs.mns.kyutech.ac.jp/> **The deadline is July 31, 2009.** If there are too many applications, an appropriate number of talks will be selected so as to be set in the symposium period. Domestic participants without a talk are welcome. They are also kindly asked to register.

Contact us: isbfs@mns.kyutech.ac.jp

* 雑誌の案内

会員の属する大学等で、最近数学関係の雑誌は大学の法人化などで手に入れるのが経済的に困難なところもあるのではないのでしょうか。ここ協会には諸外国より、有名な雑誌が送られてきています。例えば、次の様な雑誌です。

- (1) Acta Scientiarum Mathematicarum
- (2) Annali scuola normale superiore - pisa - classe di scienze
- (3) Annals de L'Institut Fourier
- (4) Annals of Mathematics
- (5) Bollettino Unione Matematica Italiana (sezione A , B)
- (6) Bulletin of the Australian Mathematical Society
- (7) Canadian Journal of Mathematics
- (8) Colloquium Mathematicum
- (9) Communications on pure and Applied Mathematics
- (10) Indiana University Mathematics Journal
- (11) Journal of the London Mathematical Society
- (12) Memoirs of the American Mathematical Society
- (13) Monatshefte für Mathematik
- (14) Portugaliae Mathematica
- (15) Proceedings of the Japan Academy (series A , B)
- (16) Quarterly of Applied mathematics
- (17) Revista Matematica Iberoamericana
- (18) Revue Roumaine de Mathématiques Pures et Appliquées
- (19) Serdica Mathematical Journal
- (20) Tohoku Mathematical Journal 東北数学雑誌

その他、多くの外国からの寄贈があります。また、日本で発行の著名な雑誌もあります。もし、先生の教室でこれらの雑誌に興味がありましたら、協会宛ご連絡下さい。研究に役立つことを希望いたします。

* 機関会員募集

機関会員の特典としては

- (1)本屋より SCMJ を購入すると、print 版 45,000 円ですが、機関会員になると、print 版 33,000 円で **online も見ることができます。**
- (2)会員でない 2 名の方を準会員（会費不要）として登録することができます。これにより、page charge（別刷代金）が会員と同じ扱いになります。
- (3)上の準会員 2 名は online で SCMJ を見る事ができます。
- (4) Net を用いて国際研究集会を催す時、アナウンス、アブストラクトの作成などお助けいたします。大学、研究所等が協会から SCMJ 誌の直接購入すると、今年から online も無料で見るできるようになりました。機関会員の申込用紙です。適当にお使い下さい。
上にも書きましたように、2006 年より発効の機関会員制度により各機関会員に所属の研究者 2 名を

会費無料で準会員として登録しますと、準会員が SCMJ に accept された論文を掲載するときの page charge (別刷代金) は会員と同額とすることにしました。

この新しい制度の機関会員の P.R. を、日本国内外 (BRICS 諸国など) 400 大学に向けて、昨年 1 月から始めています。同時に今迄の SCMJ 投稿者で会員でない方、また、個人会員および (機関会員の) 準会員加入の P.R. も始めています。

*** Application for Academic and Institutional Member of ISMS**

Subscription of SCMJ	□Print + Online (¥33,000, US\$300)
University (Institution)	
Department	
Postal Address where SCMJ should be sent.	
E-mail address	
Person in charge	Name: Signature:
Payment Check one of the two.	□Bank transfer □Credit Card (Visa, Master)
Name of Associate Members	1.
	2.

正会員の特典としては(1)online で SCMJ をみることが出来ます。(2)論文の掲載時に page charge(別刷代金)が随分と安くなる。

(3) Net を用いて国際研究集会を催す時、アナウンス、アブストラクトの作成などお助けいたします。6,000 円を支払うと、hard-copy の SCMJ が一年を通じて手に入ります。

(4) 10 年間個人会員を続けると、国内会員は 70,000 円、外国会員は US\$600、途上会員は US\$500 を支払うと生涯会員となれます。

2008 年度からの会費

Categories	国内会員	海外会員	途上国会員
単年度 A 会員	¥9,000	US\$75, €60	US\$117, €93
3 年 A 会員	¥24,000	US\$200, €160	US\$117, €93
単年度 S 会員	¥ 5,000	US\$40, €32	US\$27, €21
3 年 S 会員	¥12,000	US\$100, €80	US\$71, €57
生涯会員	¥90,000	US\$740, €592	US\$616, €493

日本語が出来る方の入会の申込用紙です。また、英語版も書いて頂くこととなります。近く Net 上で申し込み可能となるようにしますので、入会しようとする方はそれをご利用下さい。

*** 正会員申込用紙**

正会員入会申込書

氏名		英語名	
次の2つのうち会報等を送付先とする方に○を付けてお書き下さい。			
所属先住所	〒		
住所	〒		
専門分野	表 f*より選んで○で囲って下さい f-1, f-2, f-3, f-4, f-5, f-6, f-7, f-8, f-9, f-10, f-11, f-12, f-13, f-14		
E-mail address		電話番号	
		Fax 番号	
会員区分 該当部分にチェック	<input type="checkbox"/> A1 一般1年 <input type="checkbox"/> A3 一般3年 <input type="checkbox"/> S-A1 高齢者又は学生1年 <input type="checkbox"/> S-A3 高齢者又は学生3年 <input type="checkbox"/> 生涯会員		
所属先の施設	<input type="checkbox"/> ビデオ会議可能 <input type="checkbox"/> 遠隔会議可能 <input type="checkbox"/> コンピューターセンター		
所属先の通信システム	<input type="checkbox"/> ISDN <input type="checkbox"/> IP		
所属大学等が機関会員	<input type="checkbox"/> 会員である <input type="checkbox"/> 会員でない		
SCMJのプリント版の購入			
<input type="checkbox"/> 希望 1年に付き 1年会員 9,000円、3年会員 8,000円**		<input type="checkbox"/> 希望しない	
高齢会員を申し込む場合	生年月日	学生会員の場合は在学証を添付	
日付			
私は ISMS 会員になり、国際数理科学協会に送り状に記載された年会費を払います。ISMS 会員として受け取った Scientiae Mathematicae Japonicae のコピーは個人使用とし、機関、大学または図書館やその他の組織の中に置かず、閲覧目的で会員購読することもしません。		署名	

* Notices from the ISMS March 2008 p.25 を御参照下さい。**ただし、3年間一括の場合は24,000円です。この申込みの内容は会との連絡以外には使用いたしません。

Application form for an individual member of ISMS

Family Name		First & Middle Name	
Check one of the following addresses to which "Notices from the ISMS" should be sent.			
Address of your institution (university)	<input type="checkbox"/>		
Home address	<input type="checkbox"/>		
Special fields*	f-1 f-2 f-3 f-4 f-5 f-6 f-7 f-8 f-9 f-10 f-11 f-12 f-13 f-14		
E-mail address		Tel.	
		Fax	
Membership category** (Circle one)	A1, A3, SA1, SA3, F1, F3, SF1, SF3, D1, D3, SD1, SD3, AL, FL, DL		
Check the facilities your institution has.	Conference room(s) for video conference Computer center		
Communication system of your institution	<input type="checkbox"/> ISDN <input type="checkbox"/> IP		
Is your institution (university) an Institutional Member of ISMS?	<input type="checkbox"/> Yes <input type="checkbox"/> No		
I subscribe to the printed version of SCMJ.	<input type="checkbox"/> ¥6,000 (US\$60, €48) per year for those members of A1, SA1, F1, and SF1, D1 and SD1. <input type="checkbox"/> ¥5,500 (US\$55, €44) per year for those members of A3, SA3, F3, SF3, D3, SD3, AL, FL, and DL. <input type="checkbox"/> In case A3, SA3, F3, SF3, D3, SD3, AL, FL, or DL members make the payment at a time in advance, the price for 3 years is ¥15,000 (US\$150, €120).		
For the aged member, write your birth year.		For the student member, student registration certificate should be attached.	
Date of Application			
I wish to enroll as a member of ISMS and will pay to International Society for Mathematical Sciences the annual dues upon presentation of an invoice. Copies of Scientiae Mathematicae Japonicae received as an ISMS member will be for my personal use only and shall not be placed in institutional, university or other libraries or organizations, nor can membership subscriptions be used for library purposes.			
Signature			

* Notices from the ISMS March 2008 p.25 を御参照下さい。

**Notices from the ISMS March 2008 p.28 を御参照下さい。

ISMS (JAMSの継続) 会員募集

ISMS の出版物：ISMS は、創刊より約 60 年、国際的に高い評価を得ている *Mathematica Japonica* (M.J.) と、その姉妹誌で電子 *Journal* と *Paper* 誌とを持つ、*Scientiae Mathematicae* (SCM) とを発行してきました。両誌は合併して、“21 世紀 MJ/SCM New Series, *Scientiae Mathematicae Japonicae* (SCMJ)”として、電子版は 2000 年 9 月より発行してきました。印刷版は、1978 年 1 月より、年間 6 冊、700～1200 頁を出版しています。全体として 230 巻を超える、日本で最大量を誇る数理科学の雑誌です。その特長は、下の 1)～7)です。

- 1) Editorial Board には、国内だけでなく、海外 15 カ国の著名な研究者 40 名が参加している。
- 2) 世界の research group に論文が紹介され、積極的な交流が推進されている。
- 3) Editor を窓口として直接論文を投稿できて、迅速な referee 及び出版が得られる。
- 4) 有名な数理科学者の original paper や、研究に役立つ survey が、毎号載せられている。
- 5) SCMJ は、世界の有名数理科学者による、極めて興味ある expository paper を、毎号 International Plaza 欄に掲載している。世界各国の図書館へ、広く配布されている。
- 6) 投稿論文は、accept 後 (又は組版後) 待ち時間 0 で発行されます。
- 7) *Mathematical Review*, *Zentralblatt* に from cover to cover で review されている。

ISMS の研究会：(1)研究仲間がゆっくり時間をかけて発表、討論をする、特色ある参集型研究会が毎年行われ、非会員も含む多数の参加者の、活発な研究交流の場となっている。(2)ISMS には内外の著名な研究者が多数入っておられる。近いうちに内外を結ぶ高い level の研究会が online で行われる事を期待している。(本誌 45 号 3p 及び Notices March 2006 9p を御参照下さい)

ISMS の学術賞：会員の優れた論文を広く世界に紹介し、更なる研究を奨励するために、ISMS 賞、JAMS 賞、Shimizu 賞、Kunugui 賞、Kitagawa 賞を設けている。(詳しくは本誌 45 号 2p 会則 13 条を御参照下さい)

< ISMS の会員の特典 > 1 . SCMJ 電子版の購読 (print out も含む) 無料。2 . SCMJ print 版の少額での購読 (下表 1)。3 . Page charge(別刷代金)の discount (下表 2)。

< 機関購読会員の特典 > 1 . 機関内の 2 名の方を準会員として会費無料で登録することが出来る。2 . 準会員は会員と同じ page charge(別刷代金)の discount を受けることが出来る。

表 1
【雑誌購読費】

	正会員 (1 年)	正会員 (3 年)	機関会員	定価
Print	¥ 6,000 US\$ 60, €48	¥ 5,500* US\$ 55, €44	¥ 33,000 US\$ 300, €240	¥ 45,000 US\$ 400, €320
Online	Free	Free		
Online+print	¥ 6,000 US\$ 60, €48	¥ 5,500 US\$ 55, €44	¥ 33,000 US\$ 300, €240	¥ 45,000 US\$ 400, €320

* 3 年会員のみ、雑誌購読費 3 年前分払いの場合は ¥ 15,000 になります。

著者の方には、SCMJ を 1 冊送料込みで 1,200 円または US \$ 12 で購入できます。

表 2
【ページチャージ】

	ISMS members	Non-members
p	¥ 3,500 (US\$35, € 23)	¥ 4,000 (US\$40, €27)
Tex	¥ 2,000 (US\$20, € 14)	¥ 2,500 (US\$25, €17)
LateX2e, LaTeX	¥ 700 (US\$ 7, € 4)	¥ 1,000 (US\$10, € 7)
Js (ISMS style file)	¥ 500 (US\$ 5, € 3)	¥ 800 (US\$ 8, € 5)

別刷作成について、次の費用の分担をお願いします。原稿の組版についての連絡費、抜刷送料等の事務処理として、一編について ¥ 1,000、及び上表の各原稿の種類による組版費を請求させていただきます。

(2008 年 Vol.67 から実施)

表 3
【2008 年の会費】

Categories	国内会員	海外会員	途上国会員
単年度 A 会員	¥9,000	US\$ 75, €60	US\$ 45, €36
3 年 A 会員	¥24,000	US\$ 200, €160	US\$ 117, €93
単年度 S 会員	¥5,000	US\$ 40, €32	US\$ 27, €21
3 年 S 会員	¥12,000	US\$ 100, €80	US\$ 71, €57
生涯会員**	¥90,000	US\$ 740, €592	US\$ 616, €493

**過去 10 年以上、正会員であった方に限る。

A 会員は正会員を指し、S 会員は、学生会員と高齢会員(70 歳以上)を指します。

国際数理科学協会

International Society for Mathematical Sciences

〒590-0075 堺市堺区南花田口町 2-1-18 新堺東ビル内

Tel: (072)222-1850 / Fax: (072)222-7987

URL: <http://www.jams.or.jp>